

第1学期始業式式辞

皆さん、おはようございます。今日から新年度が始まります。新たな気持ちと目標をもって新学期に臨みましょう。

さて、本日は、皆さんの先輩でもある道上伯という人物について紹介します。昨年の夏休み中、八幡浜市美術館で道上氏の企画展が開催されました。もしかしたら、この中に企画展を観覧した人がいるかもしれません。

道上氏は、1912年、八幡浜市で生まれました。1926年、愛媛県立八幡浜商業学校(のちの愛媛県立八幡浜高等学校)入学を機に柔道を始めました。その後、アメリカ渡航を企てますが果たせず、吉田町立吉田中学校に転学後、1933年に立命館大学に進学しました。翌年には京都にあった武道専門学校に入学し、本格的に柔道を習い始めます。卒業後は、高知高等学校(現高知大学)に赴任し、学生の指導に当たるとともに、各地の試合に出て活躍しました。なお、道上氏は、剣道や空手、相撲などもたしなんでおり、柔道の試合においては生涯無敗を誇ったと言われます。

戦後は、郷里の八幡浜市に戻り、水産会社を経営するかたわら、地元の子供たちに柔道を教えていました。1953年、フランス柔道連盟の要請を受けて渡仏すると、ボルドーに道場を開いて、柔道の普及に尽くすとともに、多くの弟子を育てました。その中には、1964年、東京オリンピックの無差別級で優勝したオランダのアントン・ヘーシンク氏があります。また、道上氏は、フランスだけでなく、ヨーロッパ、アフリカ、アメリカなどで柔道の指導に当たるとともに、「心技体」を掲げ、技術な指導だけでなく、人間性の育

成にも努めました。

残念ながら、国内での道上氏の知名度は、決して高くありません。私自身も、最近、道上氏のことを知りました。しかし、長年、柔道の普及に尽力した功績は、海外で高く評価されています。

私は、道上氏の足跡をたどる中で、次の二つのことに注目しました。一つ目は、常に新たなことに挑戦しようとするチャレンジ精神。二つ目は、彼が信条とした「克己利他」の精神です。ちなみに、克己利他とは、「自分のことを忘れ、他人のために生きる」です。

道上氏は、八商時代にアメリカ渡航を企てようとして、進取の気性に富んでいました。また、40歳の時、1年の約束でフランスに渡りましたが、周囲の強い要請を受け、結局フランスにとどまり、残りの人生を柔道の普及に捧げました。

今、社会はコロナ禍を経て、急速に変化しています。情報化が加速するとともに、国際社会の流動化は様々な分野に影響を及ぼしています。そういった変革の時代を生き抜くためには、そこで生活する私たち自身も自己変革を遂げる必要があります。

では、具体的にどのようなことを心掛けて生活したらよいのでしょうか。それに関しては、先ほどの道上氏の生き方がヒントになると思います。つまり、失敗を恐れず新たなことに挑戦すること、自分を大切にするとともに他者のことも考えて行動すること。

もちろん、この二つだけをやっておけばよいというわけではありません。しかし、これらのことを実践していれば、自分自身の成長と他者への貢献という果実を得ることができるとは思います。

皆さんは、それぞれ、2年生と3年生に進級しました。

3年生は、文字どおり、高校生活最後の年になります。自分自身の進路実現と、悔いのない高校生活を送るため、目標を設定し、計画的に一日一日を過ごしましょう。

2年生は、中堅学年として、3年生を支えるとともに、新入生の良き理解者になってください。また、人間の幅を広げるため、いろいろなことにチャレンジしましょう。

今年度が、皆さんにとって充実した1年になるよう、教職員一同、全力で皆さんをサポートしていきます。互いに切磋琢磨しながら頑張りましょう。

以上で、私の話を終わります。